

分科会	中2年	都市名	岡崎
提案者	岡崎市立竜海中学校		酒井智之

1. 研究主題

『持続可能な社会の実現を目指し、学びを問い合い、自己の責任を考える社会科の授業』

－2年生地理単元『東北地方～陸前高田市の今後の町づくりプランを考えよう～』の実践を通して－

2. はじめに

岡崎市の社会科部は、研究テーマ「持続可能な社会の実現を目指し、学びを問い合い、自己の責任を考える社会科の授業」を受け、研究実践を3年前から実践してきた。昨年度の研究を通して得られた成果と課題は、次に示す通りである。

<実践単元> 3年公民「地球環境について考えよう」

<成果>

- ・異なる立場の違う知識や考え方を知り、それぞれの考え方を話し合うグループ活動や全体での話し合いの場を設けたことで、生徒の思考は深まった。
- ・グループでの意見交換は、全体に比べて雰囲気もやわらかく、お互いの疑問点などを出し合い、突っ込んだ話し合いがなされていた。したがって、自分自身の考えを振り返る場として、また個々に追究したい課題を多面的な視点から捉えることができた。
- ・新聞記事、ニュース映像、現地写真、統計資料などを利用したことで、生徒は疑問や考えを身近にとらえることができた。

<課題>

- ・話し合いの中で根拠をもとに考えを伝えられない様子や、友達の考えと深め合うことができない様子が見られた。十分な調べ学習と、適切な資料を用意して根拠ある考えをもって話し合いを行っていく必要がある。また、話し合いに臨むための教師の発問も精選されるべきである。

3. 研究主題のとらえ

研究テーマ『持続可能な社会の実現を目指し、学びを問い合い、自己の責任を考える社会科の授業』についての定義づけに際して、日本の現状とクラスの生徒の実態をとらえ、そこから研究の方法を具体的に以下のよう考えることで、本研究の構想を考えた。

- ・**持続可能な社会の実現を目指す**…東日本大震災で甚大な被害を受けた東北地方が、今後復興し、より良い生活が送れるような町づくりや社会の在り方を考え、その実現を目指すこと。
- ・**学びを問い合う**…課題解決のために情報の収集に必要性を感じさせた上で調べ学習をし、獲得した知識に基づいて構築した自分の考えと他者の考えを関わらせる。そして、社会事象をとらえ直し、友達と共に再度思考を構築していき、より現実的なものを精選していくことで、自己の考えの変容や深まりに気付くこと。
- ・**自己の責任を考える**…現地の人の考えに共感し、事象に対して自分たちができること、すべきことは何かを考えること。

研究仮設と手だて

1. 学習課題を、自分たちの今後の生活に関わる問題としてとらえ、現地の人々の思いに迫る単元構想を工夫すれば、子供の問題意識を喚起することができ、切実感をもって追究活動に取り組むことができるであろう。

手だて① 生徒の心を揺さぶる問題の教材化

- ・東日本大震災を主題として取り上げ、被害と復興、今後の対策について考える授業を構成する。生徒の困っている人々の力になりたいという思いを、課題解決に対する原動力とする。

手だて② 地理的な課題、現状を踏まえた課題の追究

- ・被災地が抱える問題を、地理的な面から生じる課題と現地の人の営みから生じる課題の両面からとらえ、双方向から課題解決に向けて追究活動を行う。

2. 資料を効果的に活用したり、被災者や復興に携わる人々にかかわる調査活動を取り入れたりすれば、被災地の現状を具体的に調査し、学びを問い合うために必要な自分なりの考えを構築することができるであろう。

手だて③ 被災地の過去の様子と現状を実感的にとらえるための資料の提示

- ・現地の写真や地形図、立体模型など、現地の様子を伝えるための映像や資料を提示する。

手だて④ 被災地の人々からのインタビュー調査の実施

- ・復興に携わる人の努力の様子や現地の人の気持ちに触れるため、様々な立場の人から電話による聞き取り調査を実施する。

3. 自分の意見と他人の意見とをかかわらせながら、課題解決に向けての方法を考える生徒の心を揺さぶる発問をすれば、より多面的な合意形成を得て、独りよがりではなく共感的な理解ができるようになるであろう。

手だて⑤ 陸前高田市の今後の町づくりプランの作成

- ・被災地の人々が今後どのような町に住むことが望ましいのかを考える場を設定する。そして、安全性や利便性など、現地の人々の意識に沿った町づくりプランを考え、互いの意見を練り合わせながらプランを再考させる。

手だて⑥ 自分の考えの推移をまとめるレポート作成

- ・単元の終末に自己の考えの推移を表わしたレポートを書かせて自己の成長を認識させる。

本単元では、東北地方の東日本大震災の被害の様子を捉えるとともに、人々の絆を生み出した生活文化や復興に向けて努力する姿に焦点を当て、陸前高田市の抱える地理的な問題や人の営みから生じる問題を解決する方法を考える学習をさせたい。そして、東北地方の人々の持続発展可能な社会を目指す姿を実感し、今後の自

分たちの地域社会の形成に役立てられるような生徒を育成したいと考え、以下のように単元計画を立てた。

学習内容	生徒の活動	手だて・支援									
○震災の被害と陸前高田市の人々の様子	<p>すごい津波だなあ たくさんの人が亡くなったね 建物とか、何もなくなっちゃったね</p> <p>陸前高田市を、今後どのように復興させていったらいいのだろうか？</p> <p>陸前高田市の人々は、今どうしているのかな？（１）</p> <p>仕事はどうなっているのだろうか？ 仮設住宅に住んでいるよ 「うごく七夕まつり」を復活させた</p> <p>人との絆や伝統を大切にしながら復興に向けて努力しているよ</p> <p>でも、何もないままだと人がいなくなってしまうそう 前はどんなところだったのかな？</p>	<p>【手だて① 随時】</p> <p>・東北地方の復興についての生徒の関心を高めるため、津波の被害を受けた陸前高田市の様子を表す資料を提示する。また、実際に取材に行ってきたことを告げ、映像に対する補足説明をする。 【手だて③】</p>									
○かつての陸前高田市の様子	<p>以前の陸前高田市がどのようなところだったのか調べよう（１）</p> <p>山が多く、海岸沿いに人口が集まっていた 工業はあまり発展していなかった リンゴなどの果樹栽培をしていた カギやホタテ、ワカメの養殖が盛んだった</p> <p>過疎問題を抱えている地域だった 第一産業が盛ん。でも、今のままだね</p>	<p>・陸前高田市の人々の手で最初に復興させたものが人々の絆や伝統であったことをとらえさせるため、祭りに込められた意味を予想させてから「うごく七夕まつり」を実行するまでの様子を映像で提示する。 【手だて③】</p>									
○復興のために被災地で行われている努力	<p>陸前高田市では、どのように復興が進められているのだろうか？（２）</p> <p>仮設店舗を建てて商業を再開させた 養殖業などを復活させようとして努力している 土地をつくるために山を切り開いた ボランティアの人も復興に協力している</p> <p>復興に向けて、地元の人だけでなく様々な人が努力しているよ</p> <p>僕たちも、陸前高田市の人々の役に立てることを考えたいな</p> <p>今後どのような町づくりをしていけばいいのだろうか？（４）</p>	<p>・過去の陸前高田市の様子をとらえさせるため、陸前高田市の地形図を提示して水没した地域を確認した上で、震災以前の産業や生活の様子について調べさせる。また、不足している面については、資料を提示して補足する。 【手だて③】</p> <p>・震災の影響の他に、過疎化等でも人口が減少してきていたことをとらえさせるため、人口の推移を表したグラフを提示する。 【手だて②・③】</p>									
○今後の町づくりについて	<p>元通りの生活をすることが最優先 企業を誘致して、工業化を進めていくべき 大きな堤防を作って、災害に強い街づくりをすべき 人々が安全に暮らせるように、高台の上に住宅地をつくるべき</p>	<p>・今後の町づくりプランを作成させるため、地形図やこれまでの陸前高田市の様子、現在の復興のための取り組み等を参考にしながら、どこに何を建設するかについて考えさせる。 【手だて⑤】</p>									
○陸前高田市の人々の町づくりに対する意見	<p>陸前高田市の人々は、町づくりに対してどのような願いをもっているのだろうか？</p> <p>家や店を建てられる場所が必要 元通りの土地が必要 店を開店するための資金が必要 働く場所が必要</p> <p>早く安心して生活するためにも、働くことができる環境が必要なんだ</p> <p>安全性や土地の確保、雇用問題など、様々な条件を基にして町づくりプランを考えなくてはならないね。</p>	<p>・現地に住んでいる人たちの希望に沿った町づくりプランにするため、陸前高田市で生活している人からの聞き取りを調査活動の中に位置づけたり、市民の町づくりに対するアンケート調査の結果を提示したりする。 【手だて④】</p>									
○陸前高田市の今後の復興プラン	<p>陸前高田市に住む人々のことを考えて、もう一度町づくりのプランを考え直そう</p> <table border="1" data-bbox="284 1144 903 1256"> <tr> <td data-bbox="284 1144 480 1256"> <p>〈行政〉 安全面を考えて、高台の上に住宅地を作り、海岸沿いに新しい産業を置くようにしたい。</p> </td> <td data-bbox="485 1144 681 1256"> <p>〈産業に携わる人〉 商業を行う場所が津波で制限されるため、限られた場所の中に集約的な商業施設をつくる。</p> </td> <td data-bbox="686 1144 903 1256"> <p>〈一般住民〉 安心して働くことのできる場が、とにかく早くほしい。人口が増えるような町づくりをしてほしい。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1263 480 1375"> <p>〈問題点〉 高台にそんなに土地を作ることができるか？</p> </td> <td data-bbox="485 1263 681 1375"> <p>〈問題点〉 商業用地を集約すると、建物が老朽化した時に、商店が営業できなくなる？</p> </td> <td data-bbox="686 1263 903 1375"> <p>〈問題点〉 元通りの生活に早く戻りたいという人々の考えと食い違うのでは？</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1382 480 1494"> <p>〈結論〉 働く場所と生活する場所を分けて町づくりをしていく必要がある</p> </td> <td data-bbox="485 1382 681 1494"> <p>〈結論〉 大型で集約型の店舗を税金で建設してその中で営業するべき</p> </td> <td data-bbox="686 1382 903 1494"> <p>〈結論〉 魅力を感じる施設を新たに作り、人口が増加させるような政策を望む</p> </td> </tr> </table> <p>自分の今までの考えを、再検討してみよう</p> <p>陸前高田市の復興には、まだまだ長い年月がかかる。今だけでなく、僕たちが大人になっても、復興に協力し続けたいな</p>	<p>〈行政〉 安全面を考えて、高台の上に住宅地を作り、海岸沿いに新しい産業を置くようにしたい。</p>	<p>〈産業に携わる人〉 商業を行う場所が津波で制限されるため、限られた場所の中に集約的な商業施設をつくる。</p>	<p>〈一般住民〉 安心して働くことのできる場が、とにかく早くほしい。人口が増えるような町づくりをしてほしい。</p>	<p>〈問題点〉 高台にそんなに土地を作ることができるか？</p>	<p>〈問題点〉 商業用地を集約すると、建物が老朽化した時に、商店が営業できなくなる？</p>	<p>〈問題点〉 元通りの生活に早く戻りたいという人々の考えと食い違うのでは？</p>	<p>〈結論〉 働く場所と生活する場所を分けて町づくりをしていく必要がある</p>	<p>〈結論〉 大型で集約型の店舗を税金で建設してその中で営業するべき</p>	<p>〈結論〉 魅力を感じる施設を新たに作り、人口が増加させるような政策を望む</p>	<p>・自分の考えと現地に住む人々との考えの違いを知らせるため、必要に応じて現地に住む人々の意見をビデオで視聴させる。 【手だて②・③】</p> <p>・より陸前高田市の人々の気持ちに沿った町づくりプランにするため、それぞれの町づくりプランの問題点を出し、その代案を考えさせる。 【手だて⑤】</p>
<p>〈行政〉 安全面を考えて、高台の上に住宅地を作り、海岸沿いに新しい産業を置くようにしたい。</p>	<p>〈産業に携わる人〉 商業を行う場所が津波で制限されるため、限られた場所の中に集約的な商業施設をつくる。</p>	<p>〈一般住民〉 安心して働くことのできる場が、とにかく早くほしい。人口が増えるような町づくりをしてほしい。</p>									
<p>〈問題点〉 高台にそんなに土地を作ることができるか？</p>	<p>〈問題点〉 商業用地を集約すると、建物が老朽化した時に、商店が営業できなくなる？</p>	<p>〈問題点〉 元通りの生活に早く戻りたいという人々の考えと食い違うのでは？</p>									
<p>〈結論〉 働く場所と生活する場所を分けて町づくりをしていく必要がある</p>	<p>〈結論〉 大型で集約型の店舗を税金で建設してその中で営業するべき</p>	<p>〈結論〉 魅力を感じる施設を新たに作り、人口が増加させるような政策を望む</p>									
	<p>陸前高田市に住む人々のことを考えて、もう一度町づくりのプランを考え直そう</p>	<p>・時間的な問題から行政と住民との意見が対立している面を捉えさせ、将来の生活を重視した町づくりをすべきか、今現在の生活を重視した町づくりをすべきかについて考えさせる。 【手だて②・⑤】</p>									
	<p>自分の今までの考えを、再検討してみよう</p>	<p>・単元の終末に、震災の影響は将来長期的に回復していかなくてはならないことを受け、自分が考えた復興プランと共に、今自分にできること、来自分ができるべきことを考えさせ、レポートを書かせる。 【手だて⑥】</p>									

4. 抽出生徒

抽出生徒として、A男、B男の二人の変容を追いながら、仮設に対する有効性を検証していくことにする。二人の実態と教師の願いは以下のとおりである。

<p>【A男】…自分の考えはもっているのだが、控え目な生徒で発言は少ない。しかし、授業に対する感想については自分の思いや考えを十分に綴ることができる。また、A男の発言は、課題に対してよく考えてからするため、とった手だてが生徒にどのように働いたかを分析しやすい。A男の思いや考えをクラスに広げ、学習に対する意欲を喚起させたい。</p> <p>【B男】…社会科が得意であり、授業中の発言も多い。ただ、話し合いの授業をする際には、自分の考えを主張したいがあまりに者の意見を意識せず、一面的な見方にとられる傾向がある。B男の考えの変容を追うことで、自分の意見だけでなく、他者の考えを自分の思考にどう反映させることができたかをとらえたい。</p>
--

(1) 津波の被害を目の当たりにし、今後の復興に対して意識を高める生徒たち（第1時）

東日本大震災は、何度もニュースで見ている、生徒たちにとっても身近なニュースだった。そこで導入では、生徒たちと知っている事実や知識を出し合って、東日本大震災の被害の大きさと現在の生活の様子についてイメージをわかせる場面から始めた。生徒たちからは、「3月11日のPM2:46に発生した」「地震もだけど、津波の被害が大きかった」「死者、行方不明者が2万人くらい出た」「1本松が残っていた」「原発の被害がとても心配」など、様々な情報が出てきた。しかし、口頭での情報だけでは、生徒にとって震災のイメージを十分にわかせる情報にはならない。そこで、生徒たちから出される情報を予想し、津波被害の様子を捉えた映像を提示した。津波によって流されていく建物の様子を動画で見せたり、教師が取材に行った陸前高田市の町なみの様子を写真で提示したりすることで、東日本大震災での被害の大きさを認識させた。

陸前高田市は、市内のほとんどが山に囲まれていて、平野部に人口が集中していたので津波により甚大な被害を受けた地域である。また、カキやホタテの養殖が盛んであったり、過疎問題を抱えていたり、東北地方が抱える問題のおおよそをもっている地域であるため、東北地方を教材として学習するのに適しているといえる。生徒にとっては身近な地域ではないが、現地の人々の様子や表情を映像で見ることで関心をもち、「解決してあげたい」「何とかしたい」という思いが高まっていった。



資料1 被災地の様子

「何かできることはないのかな？」変わり果てた町の様子を見ながら、A男がそんな言葉を言った。すると、「早く前みたいな生活ができればいいけど。」「前は、家が建っていたんだよね？」と、生徒たちがA男の言葉に発言を続けた。生徒の意識の高まりが見えてきたところで、「陸前高田市を、今後どのように復興させていけばいいと思う？」と生徒に発問した。生徒は、「復興させたい」「元通りの生活を取り戻してほしい」と考えながらも、どのようにしていけばいいかわからない様子であった。そこで、具体的な方法を考えさせるためにも、「何が分かれば、何を知れば、どのように復興させればいいのかかわかると思う？」と投げかけ、生徒同士で相談する時間を与えた。それから意見を出させると、今後自分たちが調べるべき内容が次々に出てきた。課題解決に向けての方法が見えてきたところで、生徒から出てきた「これまでに、どういうふうに復興が進められてきたか？」という発言を取り上げ、陸前高田市に古くから伝わる「うごく七夕まつり」を企画・実行しようとする現地の人々のドキュメンタリー映像を視聴させた。そこには、たくさんの犠牲者を出した中で祭りを行うことについて賛否両論の声が上がる中、『人々の心の絆を取り戻すことが地域を復活させるためにどうしても必要であり、何とかして祭りを復活させたい』という現地の人々の強い思いをとらえた姿があった。また、今回の授業においても、どれだけ課題解決に切実感をもてるかが鍵となる。生徒たちの意識が、現地の人々の心に少しでも迫ることができればというねらいもあった。ビデオを視聴した後、「どうして、陸前高田市の人々は、祭りの復興から始めたの？」と生徒たちに聞くと、「町の活気を取り戻すため」「人と人のつながりが大事」「絆を復活させようとした」など、様々な意見が出された。陸前高田市の人々の努力する姿に触れた生徒たちからは、「僕たちも、何か協力したい。」「もっと陸前高田市の様子を知りたい」という思いが高まっていった。そこで、『以前の陸前高田市がどのようなところだったのかを家で調べてくる』ことを授業の終末で生徒たちに課題として与え、授業日記を書かせて第1時を終えた。



資料3 陸前高田市の地形図の一部

A男	今日の授業で、改めて東日本大震災はすごい被害を出したんだなあと思った。1年生の最後に遠足に行った日に起きたから、もうすぐ1年になる。 陸前高田の人々は、みんなの絆をととても大切にしていることが分かって、感動した。 【資料2 A男の授業日記】
----	--

(2) 以前の陸前高田市の様子に興味をもつ生徒たち（第2・3時） 第2時では、生徒の調べ学習の成果を発表する時間はじめに取っ

た。陸前高田市の「被害の様子」や「市長の声」。「復興に協力する人」「人口」「観光名所」。「こんぶやかきの養殖」。しかし、文章と数字ばかりで、どの程度発展しているのかが見えず、生徒の様子を見ても予想以上に苦戦している様子であった。陸前高田市を具体的にイメージできていない様子が見られた。そこで、陸前高田市の地形的な特徴をとらえる授業の必要性を感じ、国土院発行の25000分の1地形図を生徒に配布し、地図記号や住宅の分布、等高線からどのような場所なのかをとらえる授業を行った。

地図記号や等高線をたどっていくと、「山がちな地形であること」「漁港があること」「田や果樹園、畑のマークの割に住宅地や商業地、工場が少なく、第一次産業に頼っている面が多そうなこと」が読み取れた。読み取った情報に信憑性を与えるために、グーグルアースの衛星画像を利用し、震災前の衛星画像を提示した。衛星画像と地形図を照らし合わせながら、「予想以上に山が広がっていること」「住宅地は、市の中でも平野部に集中していること」などを理解した。また、グーグルアースを見ている中で、資料4 C1 2～1 4のように漁業が発展している様子も捉えることができた。

地形図で市の様子を把握すると、調査する視点がはっきりするためスムーズに調査が進んだ。農業や漁業が盛んであること、工業や商業があまり発展していないこと。過疎問題を抱えている地域であったこと。映像を通して確認したことや、新たな調べ学習で製造品出荷（工業）が745位（全国810市）、小売卸業販売（商業）747位（全国809市）などにより、具体的な数字をもとにして市の様子を理解することができた。また、過疎問題については、生徒の調べた人口の推移を教師の側でグラフとして提示し、確認した。そして、今日の授業でわかったことを踏まえて授業日記を書かせ、それを発表することで生徒の情報を共通のものとするばかりでなく、新たな疑問をもたせるきっかけにした。

	(前略)
	(市の以前の衛星画像を提示しながら)
C 1	ほとんど山ばかりなんだね。
C 2	家はどこにあるの？ (パソコンを操作して、町の中心部や住宅地が集まっている場所を提示して)
C 3	海の近くに町の中心部があるんだね。
C 4	平野に人は集まるんだね。
C 5	平野じゃなくても、一部のところには住宅地が並んでるね。
	(中略)
C 1 2	海の上がでこぼこしてるけど、何？
C 1 3	石じゃないの？
T 1	何だと思う？
C 1 4	違う違う、養殖場だって。地形図に書いてある。漁業をやっているんだね。
	(後略)
	【資料4 第2時の授業記録】

A男	今日の授業でわかったことは、陸前高田市はとても自然が豊かな地域であるということです。林野率 80.6%。この数字を見て、衛星画像を見ると木が多いことが分かりました。また、農業と漁業がともに栄えていると考えられ、現実に栄えていました。【資料6 A男の授業日記】
B男	陸前高田市のことは、調べてみると名物や行事などもわかってよかった。過去の姿を見て、今地震の被害がものすごく大きいことに気付いた。一体いつになったら元通りになるのか不安で仕方ない。今、どのように復興が進められているのだろう？【資料7 B男の授業日記】



資料5 生徒に提示した、グーグルアースの映像

資料7のB男の授業日記をもとに次時の学習内容を伝え、事前の調べ学習をできる範囲内で行って行くことを課題として、第3時を終えた。

(3) 陸前高田市のこれまでの復興の様子に関心をよせる生徒たち (第4・5時)

陸前高田市の復興について調べを進める生徒たちであったが、生徒の調べでは復興に対するイメージにはなかなか結びつかない。そこで、生徒たちの調べに対する視点をもう一度はっきりさせることと、復興に向けて実際に行われていることをイメージさせるために、現地の人からのインタビュービデオを短くまとめて視聴させた。また、第4時の後半では、一部の生徒が持ってきた東日本大震災に関わる本や陸前高田市内で生産されたというお酒の瓶などを紹介し、自分たちの生活とのかかわりや被害の様子を確認した。生徒たちの関心は、確かに高く持続している。

映像を通して現地の人々の声を聞いたことで、生徒の調査はさらに具体的なものとなり、第5時の発表では予想以上の情報が集まった。生徒が調べた情報は「産業の復興」「生活の復興」「ボランティア活動」の3つ視点にわけて調べたことを板書してまとめ、復興に対するキーワードを生徒につかませた。

(産業の復興)	(陸前高田市の住民生活)	(復興のためのボランティア活動)
<ul style="list-style-type: none"> 高設栽培の導入←塩害を防ぐ (直接土地を使用しないもの) 漁業の復興←港+加工工場+流通の復興 林道の復興→木材の運搬 未来→観光産業 商業に従事する人 (700人) のうち、80%の人々が被災した。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、生活支援サービス (認定難) 住宅保障費 (250万円まで借りられる) 復興計画 (H25～H30) 配食サービス 浸水した場所は危険。すぐ同じ場所に同じものを作れない。 移動販売車→仮設店舗、プレハブ店舗 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の募集 (がれき撤去→草刈り→清掃の繰り返し) 子供の相手→中学生の読み聞かせ 物資の運搬 入浴、散髪の手伝い (自分にできること) 義援金 (赤十字社→被災者へ) 支援金 (復興活動を支援するお金)
資料8 復興に向けて、3つの視点から現在行われていること		

授業後の生徒の感想は、以下の通りである。

A男	今回の授業から、ボランティア活動は結構進んでいることが分かった。しかし、産業や生活は、まだ課題が多くてあまり進んでいない。今、被災地の人々は、どんなことに困っていて、どうしてほしいのかわりたい。【資料9 A男の授業日記】
B男	やっぱり現地の人声を聞くと、色々なことが分かっていいと思った。まだ復興したとは言えないけど、みんなが前を向いて歩み始めていることが分かった。実際に何かできるといいんだけど、その何かを考える授業をしたい。【資料10 B男の授業日記】
他	現地の人話を聞くと、全てが具体的に現地の様子が分かりやすかった。もっと現地の人々の声を聞いていくべき。いろんな立場の人の意見を聞いて、今後の復興に向けてどうしていけばいいのかを考えるべきだと思う。【資料11 その他の生徒の授業日記】

(4) 陸前高田市の、今後の町づくりの方向性について考える生徒たち (第6・7時)

資料9～11の授業日記から、陸前高田市の復興に対する思いや現地の人々とかかわりたいという気持ちが十分に高まった姿が見えた。そこで、今後の町づくりについて、現地の人々の思いや自分たちの考えを踏まえた上でどのように進めていけばよいかを考える授業を行った。「現地の人に話を聞きたい」とは言うものの、誰に何を聞いていいのか生徒の中でも迷っている様子が見られた。そこで、どんな人に聞か、そして、何を聞くのかを事前に考える時間を設定した。前時の「産業」「住民生活」「ボランティア活動」の3つの視点を生かし、現地での取材を通して話をしてくれそうな人を紹介した。その結果、「市役所の人」から「住民生活の保護」や「ボランティア活動の状況」を、「商工会の人」から「産業の復興について」、「タクシードライバーの人」と「寿司店経営者」から「住民の生活」について聞くことにした。そして、自分が聞いてみたい人ごとにグループを作り、どんなことを聞くのかを話し合わせた。そして、日程を調整しながらインタビューに向けて準備を進めた。資料13の授業日記からも、聞き取り調査に意欲を高める生徒の姿がうかがえた。(第6時)

B男	いよいよ被災地の人と話すことが決定した。僕が一般の人から話を聞こうとしたのは、自分の立場にいちばん近い人から聞いてみたいから。【資料13 B男の授業日記】
----	---

現地の人に「何を聞くか」について、自分たちで今後の町づくりに対するイメージを構築させた上で聞き取り調査をさせたいと考えた。そうすることで、現地の人々からの聞き取り調査をした時に、自分たちの考えの浅さを感じるとともに現地の人々の思いにさらに近づけたいという意欲をもってくれると考えたからである。そこで、第7時では、インタビュー調査をする前の段階で、自分達ならどのような町づくりをすべきかについて考える時間を設定した。これまでの学習内容の他に、地形面での特徴をしっかりと踏まえた上で個々の考えをもたせたいと考えたため、資料14のように拡大地形図を用意した。しかし、切実感をもたせるために資料12 T4のように「もし、自分が陸前高田市に住むなら・・・」という発問をしたものの、C8のように土地が確保できるかという地形面が抑えきれない様子、C9のようにこれまでの被害を意識しているのかが疑われる様子、C11のように実際の生活を考えていない様子などが見られた。まだまだ生徒たちは、地形的な条件を深くとらえきれないことが分かった。そこで、生徒たちの意識が傾いた「どこに住むか?」という問題に焦点を当て、「住宅地」を中心とする建物をどこにつくるべきかについて、様々な視点から考えることを重視して、今後の町づくりプランを立案する授業を進めていくことにした。等高線の読み取りが難しく、土地の確保が難しい様子を捉えることが難しいことが予想されたため、資料15のように紙粘土で作成した起伏の激しさが分かりやすい立体模型と浸水域を表すシートをここで提示し、自分の選んだ場所の地形とそこが浸水域になっているかを確認させた。また、地形図上に貼った「どこに家を建てるか」を示す段ボールを見ながら、周囲の子と意見換をする時間を取った後(資料14)で、自分の現在の考えを整理し、家を建てる場所について結論を出させた。

A男	やっぱり、自分で住むには高台の方が安全だと思うけど、高台だと山につくるといことから、店などの施設が作りにくくなる。家がないところに店を作っても仕方ないから、まずは高台に作る。その上で、以前の平野部に中心的な商業施設をつくる。【資料16 A男の授業日記】
B男	みんな安全な場所を望んでるから、やっぱり山を切り開かなければならないと思う。道を広げ、なるべく平地にする。活気のある町は、商店街があって人の集まる場所だと思う。まずは、安全第一。それから市民の希望にこたえるようにする。【資料17 B男の授業日記】

	(前略)
T4	色々な建物を挙げてくれたんだけど、もし自分が陸前高田市に住むなら、住宅をどこに建てますか?段ボールで家を作ってきたので、自分が住みたい場所に貼ってみてください。
C7	(提示した巨大地図に段ボールの家を貼る)
T5	(海から離れた台地に置く生徒に) どうしてここに置いたのかな?
C8	津波が来てないし、平野っぽいから。(海沿いの今までの場所に置いた生徒に) どうしてここに置いたの?
T6	今まで通りの場所のが、道路もあって便利。
C9	(山の上に置いた生徒に) どうしてここ?
T7	えーっ、ダメだろ? (クラスから笑いの声)
C10	絶対津波が来ないから・・・
C11	へーっ、みんな住みたい場所が違うんだね。現地の人にとって、どこが一番いいのかな?
T8	(後略)
	【資料12 第7時の授業記録】



資料14 生徒に提示した巨大地形図



資料15 立体模型を見て自分の選んだポイントが浸水域から外れていることを確認して安心する生徒

提示した地形図に工夫を加えたことで、資料16・17の授業日記のように、地形的な条件を強く意識した個人の考えが構築できた。そして、個人の考えを書かせた後に、授業後の時間を使って陸前高田市の人々からの聞き取り調査を行った。聞き取り調査の主な質問と回答は、以下の通りである。

<p>市役所 菊池さん (行政)</p> <p>・今後の災害対策や町づくりについて 堤防を作る。以前は5.5m。今度は12.5m。コンパクトな商店街をつくる。ただし、盛り土が終わるまでに5～6年かかる。今すぐにはできない。したがって、山の方にプレハブの仮設店舗をつくっている。土地の造成が終わらないと商店街がつかれない。</p> <p>・今の生活について (困っていることなど) 働く場所。仮設住宅が山際。お年寄りたちの交通の便が悪いので買い物に行くのが困難。小・中学校の校庭に仮設住宅を建てている。企業を誘致したい。来てほしくてもなかなか来がらない。高田では仕事ができなくて、若い人たちの中には、市外に移動している人たちがいる。もっと過疎化が進んでしまう。</p>	<p>寿司店経営 佐々木さん (一般人)</p> <p>・今の生活について (困っていることなど) 入院施設のある病院がない。街灯がない。鉄道がない。色々なものがないこと。そして、町づくりの方向性が決まっていない。今現在は、仕事を再開し、借金を返し始めた。元通り、みんなで住みたい。</p>	<p>商工会 中山さん (産業)</p> <p>・住宅地や商店街について 平らで広い場所が必要。元の場所に商店街をつくらうと思っている。ただ、盛り土が必要。半分以上の人(60%)が高台に移りたいという。山を削って住宅地をつくらうとしているが、削った土を盛り土に使う。その上に商店街をつくるが、土地の造成に5～6年かかる。また、今までのところに戻りたいという人(30%)もいる。その人たちのためにも、5mの土地のかさ上げをして、住宅を建ててもらおう。</p> <p>・これからの産業の目標について 水産業は漁港が沈んでいるので使えない。養殖が盛んであるが、今年植えて来年収穫できるのはワカメだけ。それ以外のものは、2～3年かかる。農業については水田。塩水をかぶったため除塩をしないとイケない。津波のあったところには、今は何も植えられない。津波で流された使えないところは新産業ゾーンとして、太陽光発電パネルを整備して太陽光発電をしたり、野菜工場をつくらうとする。</p>
<p>資料18 インタビュー調査の内容と主な回答</p>	<p>タクシードライバー 村上さん (一般人)</p> <p>・自分が住みたいと考える、理想の町とは? 防潮堤とか、盛り土とかそういうのを早くしてほしい。防潮堤だけでも4・5年。本当の復興までは10年くらいかかるんじゃないかな。病院が必要。鉄道、大船渡線が必要。商店街があって、電車が走っていること。便利な町。大きな買い物は、隣町までいかないといけない。大船渡市や気仙沼とかに買い物に行くとうらやましくなる。今よりも高いところを選んで住みたいと考える人が多い。でも、愛着があるから、被害にあってもここ(平地)に住みたい人もいる。</p>	

(5) 町づくりの方向性を再考し、練り上げていく生徒たち

第8時では、聞き取り調査の内容を発表させた後に、自分の町づくりプランについても一度考え直す場を設定した。資料19・20の授業日記からも分かるように、地形面から考えた自分たちのプランだけでは地元の人の思いに迫れていないと感じ取った。現地の人の意見を聞いたことが、生徒の思考に大きく影響したことがうかがえた。

<p>A男</p>	<p>現地の人の話を聞いて、自分たちでは気付かないことが分かった。<u>仕事をするとところを新しくつくる必要がある。仕事がないと人は町に住みたいと思わない。</u>まずは、最低限昔の状態まで戻すこと。高台へ移住するのは問題が多い。津波の被害を考えると必要だけど、人々が大切にしている自然を壊すのはどうかと思う。堤防についても、あまりにも高いと景観的に圧迫感が出てしまう。だから、平地に盛り土という商工会の人の考えがとてもしない。でも、時間がかかる。【資料19 A男の授業日記】</p>
<p>B男</p>	<p>「高畑」という所は、津波もおそらく来ないし便利だと思われるから、そこを中心として西側に平地を広げていくべき。(高台移転に賛成) 商店街は、当然住宅地付近につくるのがいい。人が多く、にぎわっている方が客は入ると思う。一次産業が中心であったが、過疎化の問題もあるため、二次産業や三次産業に少しずつ移行させる。一次産業は、震災の影響が収まり落ち着いてから再開すればいい。道路の幅を広げて、大きな都市へ近づける。【資料20 B男の授業日記】</p>

第9時では、住宅地の場所を中心に据えながら、商業施設や産業などをどこに置かなど、今後の町づくりプランについてみんなで話し合う場を設定した。資料21C12のA男の意見、C16・C17から見られる資料18の佐々木さんや村上さん、中井さんの意見を生かしている発言などから、これまでに学んだ知識をもとに考えた自分のアイデアに、インタビュー調査によって得られた現地の人々の願いを加えて意見を発表していったことが分かる。また、資料21C9で、B男が「高畑」という具体的な地名を出して、標高を示しながら地形図で説明する場面があった。高台に移転するにしても、生活の利便性が最大限残されるように、浸水域と地形の様子から生活範囲を割り出すほど、思考が高まった様子が見られた。

<p>A男</p>	<p>高台に住む、平地に住む、どちらにしても問題点はたくさんあった。平地についての問題点は、津波からの安全の確保だと思う。住民の考えを最優先にして、高台と平地をわけて人を住ませるといいと思った。 【資料22 A男の授業日記】</p>
-----------	--

	<p>(前略)</p>
<p>C5</p>	<p>僕は平地です。陸前高田は漁業のまち。海の近くがいいと思う。</p>
<p>C6</p>	<p>お年寄りも多く坂道はきつい。防潮堤を高くして平地にすみたい。</p>
<p>C7</p>	<p>僕は高台 命がないと漁業ができない。</p>
<p>C8</p>	<p>お年寄りは避難にも時間がかかるので、安全を考えて高台にした方がいい。</p>
<p>C9 (B男)</p>	<p>自分も高台。標高が、50～100mがいい。「高畑」という所がちょうどいい。高すぎると上り下りが大変。50mくらいなら車での移動が可能。</p>
	<p>(中略)</p>
<p>T6</p>	<p>平地に住むべきって言っていたA男君どうですか?</p>
<p>C12 (A男)</p>	<p>とにかく働く場所がないと生活できない。職場をつくりやすいのは平地。平地を5m高くするという案が出ているので、波も来ない。</p>
	<p>(中略)</p>
<p>T7</p>	<p>なんで平地にするの?津波が来たんでしょ?</p>
<p>C16</p>	<p>昔そこに住んでいた人は愛着がある。買い物も。</p>
<p>C17</p>	<p>山の上とかに切り開いて住んでも市民全員を住ませるほど広く面積がとれない。絆がなくなってしまう。</p>
	<p>(後略)</p>
	<p>【資料21 第9時の授業記録】</p>

B 山の方に住宅を作ることでお年寄りに負担がかかるという意見が出たが、買い物や移動の手段は自動車系のものだと思うので、
男 バスを作り、バス停を店の前につくれば問題ない。時間をかけてでも、安全を優先するべき。 【資料23 B男の授業日記】

しかし、ここではまだ、自分の考えを主張している段階にすぎない。そこで、第10時では、陸前高田市の人々のために一番良い町づくりプランはどうあるべきかについて自分の考えを問い直し、生徒の合意形成の場を設定したいと考えた。お互いにもっている考えを発展させて、みんなが納得できる町づくりプランにするための方法を考えた。ここでは、自分が違う立場の場所に住むとするならば、課題を克服するためにどんな方法が考えられるかを考え、ノートに記述させてから話し合いを始めた。

現地の人々の間でも、今後の町づくりをどうしていくかについて意見が分かれていることを意識したため、自分の意見に固執するというよりは、違う立場に立った時に自分なら何が必要と考えるかで発言が進んでいった。資料24C22のように、B男は、道路という面にはこだわりを持ち続けたが、平地に住んだ場合の対策についても意見を考え発表している。また、C25でA男が、個人の意識の尊重と陸前高田市の人々が守り続けてきた伝統の大切さ、人々の絆の大切さを訴え、授業の総括となる意見を発言した。この2人の抽出時の様子から見ても、相手の意見を尊重しながら、考えを深めていく姿がうかがえた。

第11時で、個々の思いの変容と個人の復興プランをレポートにまとめ、授業を終えた。A男とB男のレポートの内容は、以下のとおりである。

	(前略)
C10 (高)	3つの町の1つずつに30メートルの塔を建てる。遠いところに避難するのではなく、津波から避難するため。
T7	何で30M?
C12 (高)	30Mの津波は来ないから。
C13 (高)	山に避難所。生活は平地。道2本。避難所につながるようにする。町にバスを用意し、津波が来る前にバスで避難所へ避難できるようにする。
C14 (高)	高台と低地の間に家を建てる。お年寄りや体の不自由な人のために移動スーパーのようなものを用意する。
T8	高台と低地の境目って、どの辺?地図で示して。
	(中略)
C16 (高)	避難経路を地図に書いて伝える。万が一おこった時にも大丈夫、
T9	どうやって伝えるの?
C17 (高)	チラシみたいなのに書いて配ると確認ができる。
C18	看板みたいなものをつくる。現在地を赤く塗る。
C19	イオンにもあるよね。俺、今いわからないけど。
C20 (平)	高台にもスーパーとか全部立てる。漁港とかは、海沿いじゃないといけなから海に残す。通う。高台と平地の間に何かしら移動手段ができれば。
T10	何ができればいい?
C21 (平)	電車かバスとか。
C22 (平)	漁港の近くは道がごちゃごちゃしているから、高速道路をつかって、まっすぐ避難できるようにする。
(B男)	(中略)
C25 (平)	両方とも住める条件がそらえば、住民に聞いて好きな方に住むようにすればいい。同じ市内なら、そこまで絆はなくなるから。祭りとかを大事にしていけば大丈夫なのでは?
(A男)	(後略)
	【資料24 第10時の授業記録】
* (高) は住居を高台に、(平) は住居を平地に構えるべきと考えていた生徒	

初めに、陸前高田市の様子を調べて、ニュースや新聞で読んでいただけでは分からない深いことが分かり、それだけでも十分に身近なことだと感じる事ができた。僕は、これまでの授業を通していろいろなことを調べたのですが、被災地に向けて自分では大したことができませんが何か募金などやってみたいと思うようになりました。復興プランを考えるに当たり、一番強く印象に残り、一番役に立ったのは、商工会の中井さんから直接お話をうかがったことです。電話をするまでは、どちらかという高台に移住することに賛成でした。しかし、中井さんから30%の人々が平地に住みたいと考え、その理由が地域への愛着という言葉聞いたことや、新しい産業を生み出そうと考えていることを聞いて、平地に定住した方がいいのではと考えが変わりました。住居について、高台と平地で意見交換をした時には、平地の危険性と高台の不便さの両方を思い知らされて、最後は便利な生活がしやすいからという理由で平地に住むことを考えましたが、地域の人の気持ちに本当に沿っているのか疑問を感じるようになってしまったのが気になりました・・・。

【資料25 A男の単元終了後のレポート】

はじめは高台に住んでいた方が安全でいいかと思っていたが、交通が不便であったり、仕事が少なかったりと、問題が多くあることに気付いた。次に考えたのは「高畑」付近にしようと思ったが、全般的に土地が高く高速道路もあって便利では思ったけど、市民の中には育ってきた土地に住みたかったり、仕事のしやすい環境にいたかったりという人もいた。自分でもそう思う。ただ、以前の町をそのままつくっても、過疎化という解決しなければならない問題が起こる。だから、新しい産業も取り入れながら町づくりをしないといけない。・・・自分が最後に決めたのは、平地に住宅を構えることだった。山に避難所を作って、災害時に津波が来る前に道路を使って避難できればいいと思った。大変ではあるが、市民の気持ちを一番に考え、少しでも早く仕事や土地、漁港を直すべきであると思う。

【資料26 B男の単元終了後のレポート】

6. 研究の成果

(1) 仮説1 ～現地の人々の思いに迫る単元の工夫が、

課題解決に向けて切実感をもった取り組みとなったか?～

単元の終末時に書いたレポートで、A男は資料25の太線部のように、今回の学習課題を「十分に身近なことだと感じる事ができた」と書いている。そして、単元を通して被災地に向けて募金活動などの行動につなげたいという思いを綴っている。まだまだ自分のできることは小さいとしながらも、学習を通して知った事実をもとに課題解決に向けて切実感をもって取り組んだ姿が見られた。それ

は、資料2の授業日記にある「みんなの絆をととても大切にしていることが分かって、感動した」という被災地の人々への思いが資料9の「今、被災地の人々は、どんなことに困っていて、どうしてほしいのか知りたい」という学習意欲へとつながり、資料25の下線部のように現地の人々の思いに触れながら自分の考えを深めていく姿からも読み取れる。B男は、資料7の授業日記で「一体いつになったら元通りになるのか不安で仕方ない。今、どのように復興が進められているのだろうか？」という記述を、資料10の授業記録で「実際に何かできるといいんだけど。その何かを考える授業がしたい」という記述をそれぞれ残している。B男の学習に対する切実感が高まった様子が見取れる。

また、生徒に切実感をもたせるため、地形面から生じる課題と人々の生活から生じる課題の両面から、今後の町づくりに対する課題解決をはかる追究活動を行った。地形面を追えば安全を重視したくなり、現地の人々の生活や絆を大切にしたい人々の気持ちを思えばなるべく平地に住むことが望ましいと考える。この両面を解決するための方法がないかを、B男はずっと悩み続けた。その過程がそのまま、学習に対する深まりを生んだといえる。それは、資料20のB男の授業日記で、「過疎化の問題もあるため、二次産業や三次産業に少しずつ移行させる。」と記述していることや、資料26のレポートで「以前の町をそのままつくっても、過疎化という解決しなくてはならない問題が起こる。」と記述していることなど、陸前高田市の人口のグラフの推移を読み取り、資料18の菊池さんの思いに近づきたいという、B男の町づくりに対する考えに新しいものを取り入れていかなくてはならないという意識をもたせ、思考を深め続けていったことからうかがえる。

このようなA男、B男の姿から、手だて①・②が有効に働いたと見ることができる。

(2) 仮説2 ～被災者や復興に携わる人々とかわる調査活動は、

学びを問い合うために必要な自分の考えを構築させたか？～

第1時では、生徒に学習に対する意欲をわかせることを期待して、現地の様子を写真や動画を利用して伝えた。今までの町が一瞬にして崩壊する様子に、生徒たちも悲しさを共有し、課題解決に意欲を見せた。次に、第2時で、生徒に各自で調査した内容を発表させたが、思うように調べられなかった。それは、現地の様子を予測できなかったため、調べる学習に視点がなかったからだと考えた。そこで、生徒が地形の様子を具体的に読み取るために地形図を提示し、その上でグーグルアースの映像を見せた。地形図と実際の衛星画像を重ねて見ることで、陸前高田市の生活の様子を分かりやすくとらえることができた。また、過去の衛星画像と現在の衛星画像を重ね合わせることで、被害の大きさを実感することにもつながり、調べ学習に対する視点を与えるばかりでなく調べ学習に対する意欲も高めた。また、巨大地形図や立体模型についても、資料14・15のように周囲の子と相談し、自分の考えを伝える上で役立ったり、自分の選んだ場所が本当に正しいかを確認するうえで役立ったりと、視覚的、触覚的に地形的な条件をとらえる上で大いに有効であった。

また、単元の終末時にクラス全体で町づくりプランを練り上げていくためにも、個人の考えが、しっかりとした調べ学習を土台にして構築されていなければならない。そのために、被災地の人々からの聞き取り調査はなくてはならないものであった。資料25の授業日記の下線部で、A男は「一番強く印象に残り、一番役に立ったのは、・・・平地に定住した方がいいのではと考えが変わりました。」と記述している。これまでの調べ学習を通してつくり上げてきた考えであるが、被災地の人の話を聞いて考えをさらに深めた様子が見られた。B男は、何より被災地の人の声を聞くことを切望していた。そして、目的意識のある調べ学習は、その後のB男の考えを構築させるのに大いに役立った。それは、資料13の授業日記や資料20の授業日記で「高畑」という具体的な地名を出して解決策を考えるなど、自分の考えを深めていく姿が見取れる。

このようなA男、B男の姿から、手だて③・④が有効に働いたと見ることができる。

(3) 仮説3 ～他人の意見をかかわらせて考えを揺さぶる発問をすれば、

より多面的な合意形成を得て、共感的な理解ができたか？～

他人の考えと自分の意見をかかわらせる場合は、個々の意見をより深めるのに非常に役立った。A男は、資料22の授業日記で、「高台に住む、平地に住む・・・高台と平地をわけて人を住ませるといいと思った。」と記述しているように、他人の意見を聞いた上で、新しい考えを生み出している。B男については、資料17にあるように「まずは安全第一。それから市民の希望にこたえる。」と記述するなど、自分の考えに固執し一面的な見方にとらわれる傾向があった。しかし、第9時の授業を終えたときには、資料23にあるように他人の考えを「問題ない」と退けながらも、第10時の話し合いでは資料24C22のように、「漁港の近くは道がごちゃごちゃしているから、高層道路をつくって、まっすぐ避難する。」と、平地に住んだ場合の対策も考えるようになった。さらに、資料26では、他人の意見の良さを取り入れながら、最終的な結論を「平地に住宅を構える。」としている。他人の意見を、自分の考えを深めるのに役立てた瞬間であった。

また、A男は、資料25の単元終了後に書いたレポートの波線部分のように、「・・・最後は便利な生活がしやすいからという理由で・・・、地域の人の気持ちに本当に沿っているのか疑問に感じるようになってしまったのが気になりました。」と、自分の発言に対して責任を感じる姿も見られた。そして、生徒からお互いの意見を尊重し、自分の考えを改めるに至った背景には、陸前高田市の人々への思いが何より重要であった。それは、資料24の授業記録で、生徒たちが自分と逆の立場に住むことを考えた場合の解決策を考えて進んで発表につなげる姿からもよくわかる。

このようなA男、B男、そしてクラスの生徒の姿から、手だて⑤・⑥が有効に働いたと見ることができる。

7. 今後の課題

今後の課題としては、生徒が感じる切実感の差が課題として挙げられる。多くの生徒は、現在起きており、今後も時間をかけて復興させていかなければならない大きな問題としてとらえているが、生徒によってはあまり切実感が高まっていない場面も見られた。例えば、資料12第7時の授業記録では、「もし自分が陸前高田市に住むなら・・・」と発問したにもかかわらず山の頂上に住居を置いた生徒や、「今まで通りの場所の方が、生活が便利」という理由だけで、簡単に平地に住居を置く生徒がいた。まだ、現地の人々の生の声を聞いていない段階であったが、意識の高まりに差を感じた瞬間だった。したがって、生徒により切実感を与えられるような教材の開発や提示の仕方、発問の工夫をさらに研究していく必要がある。